

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	191400183		
法人名	医療法人 鴻仁会		
事業所名	グループホームまつかわ		
所在地	函館市松川町41番17号		
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果市町村受理日	平成27年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL gokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivvosvoCd=0191400183-00&PrefCd=01&

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE		
所在地	北見市本町5丁目2-38		
訪問調査日	平成27年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域とのつながりを大切にしており行事等に参加し、清掃活動、お祭り、餅つきなどに参加し交流を深めています。
 ・グループにおいて委員会があり、それぞれの情報交換行い、相互に協力関係を築き入居者様が安心、安全にらせるよう話し合い支援しています。
 ・ホームは家と同じように素直で過ごしていただき、入居者様が充実して生活出来るよう、自立支援を大事にし生活して頂いています。また、ホールより全居室が見渡せる環境になっており、居室より出られると職員、他利用者様の顔がすぐに見られるため安心して生活出来るようになっていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

函館市の中心地に位置する庶民的で温かみのある静かな住宅地に立地し、近くにはコンビニエンスストアや何代も続いている商店、教会がある新旧の文化が一体となった地域となっています。共有空間は広々として明るく開放感がある造りで、リハビリテーション用の機具も設置し、利用者は健康・機能維持の為、職員と一緒に訓練を行っています。事業所内は掃除が行き届き清潔が保たれ、利用者や職員は裸足で過ごしています。母体法人は病院経営をはじめ函館市内で、複数のグループホームやデイサービス・介護付き有料老人ホーム・小規模多機能ホームなど多岐にわたり老人福祉事業を展開しています。事業所の特筆すべき点は医療体制の充実と職員のチームワークの良さで、利用者や家族に安心感を与え信頼を得ています。運営者が町内会長であることから地域との関わりも深く、お祭りには多くの職員がお手伝いをして高齢化が進む地域で時代の担い手として大いに期待されています。管理者は職員のレベルアップ・スキルアップを目指し、年間目標を決めて積極的に運営やケアに取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本指針、ホームの理念や毎年目標を立て、職員一同共有し実践に取り組んでいる。理念についての勉強会を行い確認しあっている。	地域密着を重視した事業所独自の理念を作り、毎年全職員で前年度の反省をして振り返る機会を設け、今年度の具体的な目標を定めて管理と職員が理念を共有し、実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や、ボランティアへの参加を積極的に行っており、地域の方と顔馴染みになり、お話しをしたり、挨拶をしたりと交流をしている。	町内のお祭りは高齢化が進むこの地域では職員によるボランティア活動が大きな役割を担っています。清掃活動には車いすの利用者も積極的に参加し盛んに交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人自体が地域に対して開かれており色々な形で地域貢献を行い、当ホームでも運営推進会議など地域の方が参加し理解していただけるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様、ご家族様、包括、行政、町内会様、法人関係の様々な職種の方が集まり、意見交換を行いサービス向上を目指している。	年6回開催して利用者・家族・町内会・包括などの方々が出席し、事業所の取り組みや利用者の生活振りを報告し、管理者がその時期に沿った関心のあるテーマを決めて話し合いやミニ勉強会をして活発な意見交換が出来るように工夫しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などの連絡を行い参加していただけるようにし欠席の際は資料等を郵送し協力関係を築くよう取り組んでいる。また助言を頂いたり、相談したりとサービス向上に努めている。	研修会の情報を始め、困り事の相談をしたり、助言・アイデアをいただくなど、連携を密にして協力体制を整えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修や講習会へ参加し、勉強している。身体拘束委員会を月一回行い、伝達講習やスタッフミーティングでも話しをし、身体拘束に努めている。	定期的なミーティングや内部研修・外部研修に参加することで、身体拘束をしない暮らしの徹底理解を図り、日々職員同士もチェックし合い自由な暮らしの支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修や講習会へ参加し、勉強している。虐待防止委員会を月一回行い、伝達講習やスタッフミーティングでも話しをし、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修、講習に参加している。今後も、積極的に参加し、ミーティング等で職員全員が周知理解できる様に努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はしっかり説明を行い、利用者様、ご家族に理解と納得を得て契約している。また、疑問点などある際は、随時相談を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口、目安箱を設置している。またアンケートを送り、サービス向上に取り組んでいる。運営推進会議などで報告し、意見、助言を頂き改善に取り組んでいる。	法人は3ヶ月毎にアンケート調査を実施して、結果は各事業所に伝えられ、課題は全職員で検討し運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度、スタッフ会議を行い、代表者も参加され職員の意見、提案など聞く機会を設けている。また2ヵ月に1度懇話会を行い、自由に話せる場を設け、業務に反映させている。	12月から隣接するグループホームと合同で毎月スタッフ会議を開催して、活発な意見交換をし、切磋琢磨しています。運営者や管理者は日頃から些細な事も表出しやすい様に心がけおり、今までに遅番の職員が帰宅時に使用する出口に街灯を設置しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会や、利用者様の担当をそれぞれ持ち、責任を持ち業務に取り組んでもらっている。また代表者、管理者、職員などの話しの場も設け、職場環境の改善に取り組んでいる。資格の助成金の制度などもあり、職員のやる気を上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度、法人での勉強会に参加している。また内部研修を適宜行い、職員に合った外部研修にも参加してもらっている。研修内容を伝達講習して頂き、知識、向上を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内、外部での勉強会、研修への参加や、行事や委員会活動を通じ、情報交換や交流を行いサービスの向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の訪問、面談、入居時に入居者様や、家族様が不安に思っている事、感じている事を把握、共有し、早急に解決が出来るように検討し、安心して過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族様と面談を行い、具体的な支援について職員で話し合いをし、ご家族様に報告し安心してもらえるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望に沿えるように職員で話し合い、入居者様がより良い日常を過ごせるよう、またご家族にも安心していただけるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の人格、尊厳を尊重し、人生の先輩として尊敬し学んでいく姿勢を忘れないように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ホールや居室など希望された場所でいつでも気軽に立ち寄れる環境作りや、遠方のご家族には電話連絡を取り近況報告など行い、関係作りに取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人やご家族とお話しし、馴染みの人など気軽に立ち寄れるような環境作りに取り組んでいる。ドライブの際、利用者様に事前に行きたい所など聞いて、計画を立てている。	家族と年賀状や手紙の交換を続け、馴染みの関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る席は、入居者様同士の関係に配慮した配置になっている。レクリエーションや、家事、手伝いなど全利用者様が参加し、楽しめるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談を受け、関係性を大切にしている。また、退居させてもグループ内の施設で利用されている事が多いので、随時相談出来る体制になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室には本人が使用していたものや馴染みの物などを持ってきて置き置くようにしている。また家族様や、本人との会話などを通じ、希望にそえるよう支援している。	利用開始時に本人と家族から意向や希望をうかがい、日々の関わりの中から情報の蓄積に努め、困難な方には行動や表情から真意を推し測っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族、介護支援専門員よりサービス利用の経過等について情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や、情報などを参考にし本人に合った過ごし方を考えている。また体操、レクリエーション等を毎日行い現状維持、アップに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成、担当者は面会時、家族様、本人を交え、また電話にてお話しをしている。また、モニタリングを行い必要時、カンファレンスを行いプランに取り組んでいる。	利用者担当職員を中心にモニタリングし、カンファレンスで全職員から意見やアイデアをいただき、本人や家族の希望を取り入れた介護計画を作成しています。また、状況や状態の変化に臨機応変に対応し、現状に即した計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を毎日記録し、情報を共有しケアの見直しを行っている。また面会や電話にて、日々の様子を家族様にお伝えし、必要時プランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの状況に合わせ、随時相談や支援を行っている。それぞれの利用者様に合わせた生活が出来るよう、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や、ボランティア活動に参加している。また、施設の行事の際はボランティア団体を呼んだりして芸を観てもらっている。避難訓練は消防署の立会いの下、実施・指導を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より、ご本人様やご家族様に希望を伺い、ご家族様と協力しながらかかりつけ医の受診ができるように支援している。また同じグループに医院があり、ほとんどの利用者様が利用され安心した生活を送る事が出来ている。	殆どの利用者は法人医師をかかりつけ医としており、24時間体制で医師・看護師・事業所・家族の連携を図っており、適切な医療が受けられるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師による健康管理指導や、医師による居宅療養管理指導を受けて頂き、相談や指示を頂いている。また、24時間365日連絡が取れる体制を作っており、入居者様には安心して暮らせられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に安心して退院できる様に入院先関係者との情報交換・協力体制が取れるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については入居前からご家族・ご本人と話し合いし入居者様の状態を見ながら都度ご家族様と話し合いを持ち、法人内外との連携をし支援に取り組んでいる。	利用開始前より本人や家族と話し合い意向の確認に努め、状況の変化に応じて、医師・家族・ケア関係者で連携を取り、繰り返し話し合う体制を整えています。	今後はスタッフの理解や意欲をより高めるため、全職員で話し合を繰り返す積み重ねに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故に備えマニュアルを用意し、日頃より意識し、実践できるように職員は、ホーム内で勉強会を行っている。また急変時は、協力医療機関が近くにありすぐに対応できる体制をとっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて消防立合いの下、避難訓練を行い昼夜を問わず、入居者様が安全に避難できるように取り組んでいる。また、1階のデイサービスやグループ内での協力体制が出来ている。	消防署の指導のもと、本部職員・防災設備会社などの方々が参加して、年2回地域の方の協力を得て、避難訓練や通報機器の操作・手順などを確認しています。食料や水などの備蓄品は本部で用意しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の気持ちを尊重し自尊心や誇りを傷つけない様に言葉使いや対応に配慮している。	利用者の生活歴や性格に合わせた接遇に心掛け、トイレや入浴など羞恥心を伴うケアには誇りやプライバシーを損ねない対応に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、本人の意思や希望を大事にし、その人らしく過ごす事が出来るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人のペースを大切にし、利用者に合った生活が出来るよう、支援しています。また、レクリエーションや体操なども行い、充実した生活が出来るよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装などは、本人や家族と相談して選んでもらい着て頂いている。また定期的な理美容を行い、本人の好みに合った髪形にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はグループの管理栄養士が作成している。食事は配食サービスとなっており、盛り付け、米とぎ、味噌汁作りは職員と一緒にやっている。月に一度イベントがあり、その際は一緒に作っている。また職員で調理師もおり、法人の給食会議に出席して情報を共有している。	日々の食事は法人の管理栄養士が献立を作成し配食していますが、誕生会の際はケーキやお寿司・鍋物などを職員と一緒に作っています。時にはホテルのビュッフェを利用して、外食をする機会を確保しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を考えており、バランスが取れた食事になっている。入居者様個々の食事量、水分量を都度記録し、状況にあわせて食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、出来る限り本人にしてみよう、出来ない部分については支援を行っている。義歯は洗浄剤を使用し、清潔を保って頂いています。また、法人に歯科もある為、必要時には相談、診察、講義をしてもらっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導、介助、見守りを行い排泄パターンを把握する為24時間の排泄表を使用しトイレでの排泄や自立に向け支援している。	排泄パターン表を活用したり、習慣・身体機能を全職員で把握して声掛けや誘導することで、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行い、また、衛生用品の使用軽減にも繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、管理栄養士にてバランスの取れた食事が出来ている。記録を活用して水分量の把握や排便の確認をしている。また、個々に合わせ身体を毎日動かしている。必要時、看護師、主治医への相談も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2ユニットでお風呂が一つしかないので相談しながら使用している。入居者様の状態や気分などに合わせ、相談しながら入浴を行っている。	週2回入浴していますが、拒否の強い方は無理強いすることなくタイミング良く声掛けしたり、日を変えて臨機応変に対応しています。入浴は職員とゆっくり話しが出来る楽しい時間となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な休息を取りながら、一人一人の体調や状況に合わせた活動をしてもらうことにより、夜もぐっすり眠っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は、個人ファイルに保管し、職員がいつでも確認できるようになっている。服薬はマニュアルにそって行っている。また薬は薬局より、日付、毎食後に分かれた箱に入り届けられ、服薬間違えないよう工夫されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や家族様より聞き取りを行ったりし、入居後も出来る限る続けられるよう、支援をしています。行事レクリエーションなども取り入れ、外に出る機会も増やしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に行ったり、町内会活動への参加、行事レクリエーションなど外へ出る機会を増やしている。	暖かい季節には法人所有の菜園を見に行ったり、皆でお弁当を作りピクニックに行くなど外出の機会を多く確保して、気分転換やストレス解消をしています。年間行事として花見など遠出のドライブを多く企画しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金での管理はしておらず、立て替え金にし使った分のみ家族様に請求している。本人、家族様が希望される場合は、少ない金額で所持していただいている。ネットスーパーを活用し、利用者様と一緒に選んで商品を購入する事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族と話しをして、ご本人様が電話希望された際、時間など考慮し対応している。手紙が来た際は、利用者様へ職員が読んで伝えていきます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度計を見て、気温や湿度を調整している。季節感を大切にし入居者様と一緒に飾りを作り飾ったりし季節感を楽しめるようにしている。照明や、音量にも気をつけ、ストレスがかからないような空間作りを行っている。	テーブルやソファが使いやすく配置された、共有空間は大きな窓から温かい陽がたっぷりと入り、温度や湿度も適切に管理され清潔が保たれております。利用者はお気に入りの場所で好きな音楽を聴いたり、コンサートの映像を見たり、得意の編み物をするなど好きな事をして過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが広くゆったりくつろげられるように、椅子やソファなどを配置し、気の合った入居者様同士がゆっくりお話しされたり、個々でのんびりできるような工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前よりご本人やご家族に実際に居室を見ていただき、ご家族にも家具など使い慣れたものをご本人と相談の上で持って来ていただくようにしている。	利用前から本人や家族と相談して使い慣れた収納ケースや調度品・思い出の品々を持ち込み、思い出の部屋づくりをし、暮らしやすい工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、浴室など手すりがあり、バリアフリーになっている。台所はオープンキッチンでカウンターがあり、その方の能力に応じてお手伝いできるように工夫している。		